

タイトル「2021年度スポーツ科学部(公開用_コロナ対策版)」、フォルダ「スポーツ科学部」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS4606		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	原 怜来		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	1206	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシー（DP）との関連 DP3－G（状況把握力・判断力） 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する 集団の内外の状況を的確に把握し、適切に 対応することができる。 DP4－F（探究力・課題解決力） 問を設定し又は論点を特定し、それに対する 答・結論・判断を合理的に導くために、 論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答える ための方略をデザインし、検証し実行する ことができる。 DP4－I（理解力・分析力） 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、 情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効 かつ円滑に行い、課題の解決につなげるこ とができる。 DP5－J（創造的挑戦力・達成力） コンピテンスの開発を生涯にわたり継続し て行うことを、自らの思考及び行動のパ ターンとともに、既存のアイデアを 革新的かつ創造的に統合し、リスクをとり ながら、結果に結び付けることができる。 DP8－M（省察力） 知識と経験とを関連付け学修成果を活用化な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 F 1 探求と論拠（20％） G 1 状況把握（30％） I 2 量的分析（20％） I 3 情報分析（20％） J 2 創造的思考（10％）		
教員の実務経験	日本水泳連盟科学委員として、選手のデータを測定し、現場にフィードバックをしている経験を活かして、授業を行います（第2回、第4回～第13回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージと対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	ゼミナールⅠに続き、グループでの作業を進め、最終的には研究発表会を開催します。研究発表会に向けて、研究のプレゼンテーション方法について実践を通して学んでいきます。また、卒業研究や卒業論文として各自が取り上げたい課題を選択していく準備を行い、論文の書き方についても理解を深めていきます。授業形態は、演習形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。 ■キーワード：研究、省察、反省的実践		
授業の趣旨	■副題 スポーツ科学に関する研究の実践および発表と振り返り ■授業の目的 学習した内容を基に自身もしくはグループでゼミナールⅠにおいて立案した研究計画の再検討を行い、それを実践し、研究結果に関する他者との議論内容を踏まえ、発表することができることを目的とします。 ■授業のポイント 研究計画の実行に伴い、実際のコーチング学に関する研究方法の汎用性や限界について実践を通して学びます。		
総合到達目標	■興味関心の高い分野において、研究を遂行し発表する能力を培うために、自身もしくはグループで研究計画の立案を行い、適切な方法を選択し、他者との議論を重ね、自身およびグループで発表する能力を修得する。 ・先行研究を検索し、その内容について説明することができる（第1回～第3回） ・的確な研究手法を選択し、測定できる（第4回～第9回） ・自身もしくはグループの研究発表に適した発表方法を選択できる（第10回～第13回） ・自身またはグループの研究実践結果を聴講者にわかりやすく発表することができる（第14回～第15回） ・実践した研究について概要を説明し、他者が実践した研究についても討議することができる（第14回～第15回）		
成績評価方法	■リアクションペーパー（30％）：適用ルーブリック G 1・J 2 （評価の観点）他者の発表や研究手法の情報に関する内容などの当該授業内容について授業終盤にリアクションペーパーの記載を行い記載内容の評価を行います。 （フィードバックの方法）リアクションペーパー提出後に授業内容の振り返りを行います。 ■プレゼンテーション（70％）：適用ルーブリック F 1・I 2・I 3・J 2 （評価の観点）自身またはグループの研究実践結果を発表し、その内容について評価を行います。 （フィードバックの方法）各発表後に講評を行います。		
履修条件	「ゼミナールⅠ SSCS4605」を履修していること		

履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 実務経験を通して、コーチング現場における科学的データの活用方法を紹介し、授業の進め方や評価についての説明を行います。授業の概要やその方法について理解し、授業でどのような内容を学ぶかについての準備を行う（G1）。 ③予習（120分） シラバスを読み、授業の流れについて確認しておく。 ④復習（120分） ガイダンスによって説明された内容について再度シラバスを確認し、自身の専門とする競技や興味のある競技についてのコーチングの実際を確認しておく。
	2	①授業テーマ 研究テーマの設定 ②授業概要 自身の興味のある研究テーマについて発表し、グループディスカッションを行い、本授業で取り扱う研究テーマを決めることができる（F1・G1・I2・I3・J2）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（120分） 自身の興味ある研究の発表準備を行ってくる。 ④復習（120分） 研究を実施する上で必要なことを再確認しておく。
	3	①授業テーマ コーチングに関する研究①＜先行研究発表＞ ②授業概要 グループで決めた研究テーマに関する先行研究を調査し、研究の現状について説明することができる（F1・G1・I2・I3・J2）。 ③予習（120分） グループで決めた研究に関する先行研究を調べてくる。 ④復習（120分） 研究の現状を再確認し、問題点を提言できるようにしておく。
	4	①授業テーマ コーチングに関する研究②＜仮説立案、実験実施準備＞ ②授業概要 グループで決めた研究テーマの仮説を立て、実験実施の準備を流水プールや低酸素室等を利用して行うことができる（F1・G1・I2・I3・J2）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（120分） グループで決めた研究テーマに関する仮説を立ててくる。 ④復習（120分） グループで決めた研究テーマに関する実験準備を確認しておく。
	5	①授業テーマ コーチングに関する研究③＜予備実験1回目＞ ②授業概要 グループで決めた研究テーマに関する本実験実施に向けて、流水プールや低酸素室等を利用して予備実験を行い、実験方法について説明することができる（F1・G1・I2・I3・J2）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（120分） グループで決めた研究テーマに関する実験準備を確認してくる。 ④復習（120分） 実施した実験の問題点・改善点をまとめておく。
	6	①授業テーマ コーチングに関する研究④＜予備実験2回目＞ ②授業概要 グループで決めた研究テーマに関する本実験実施に向けて、流水プールや低酸素室等を利用して予備実験を行い、実験方法について説明することができる（F1・G1・I2・I3・J2）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（120分） グループで決めた研究テーマに関する実験準備を確認してくる。 ④復習（120分） 実施した実験の問題点・改善点をまとめておく。
	7	①授業テーマ コーチングに関する研究⑤＜本実験1回目＞ ②授業概要 グループで決めた研究テーマに関する実験を流水プールや低酸素室等を利用して実践し、実験方法について説明することができる（F1・G1・I2・I3・J2）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（120分） グループで決めた研究テーマに関する実験準備を確認してくる。 ④復習（120分） 実施した実験結果をまとめておく。
	8	①授業テーマ コーチングに関する研究⑥＜本実験2回目＞ ②授業概要 グループで決めた研究テーマに関する実験を流水プールや低酸素室等を利用して実践し、実験方法について説明することができる（F1・G1・I2・I3・J2）。

	担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（１２０分） グループで決めた研究テーマに関する実験準備を確認してくる。 ④復習（１２０分） 実施した実験結果をまとめておく。
9	①授業テーマ コーチングに関する研究⑦＜本実験3回目＞ ②授業概要 グループで決めた研究テーマに関する実験を流水プールや低酸素室等を利用して実践し、実験方法について説明することができる（F１・G１・I２・I３・J２）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（１２０分） グループで決めた研究テーマに関する実験準備を確認してくる。 ④復習（１２０分） 実施した実験結果をまとめておく。
10	①授業テーマ 研究成果の発表方法 ②授業概要 研究成果の発表方法について学習し、様々な発表方法の利点について説明することができる（F１・G１・I２・I３・J２）。 ③予習（１２０分） 研究成果の発表方法について確認しておく。 ④復習（１２０分） 研究成果の発表方法について再確認をし、自身の発表方法を検討する。
11	①授業テーマ 研究成果の発表準備① ②授業概要 これまでに実施した研究成果の発表準備をすることができる（F１・G１・I２・I３・J２）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（１２０分） 研究成果の発表方法について確認しておく。 ④復習（１２０分） 研究成果の発表方法について再確認をし、自身の発表方法を検討する。
12	①授業テーマ 研究成果の発表準備② ②授業概要 これまでに実施した研究成果の発表準備をすることができる（F１・G１・I２・I３・J２）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（１２０分） 研究成果の発表方法について確認しておく。 ④復習（１２０分） 研究成果の発表方法について再確認をし、自身の発表方法を検討する。
13	①授業テーマ 研究成果の発表準備③ ②授業概要 これまでに実施した研究成果の発表準備をすることができる（F１・G１・I２・I３・J２）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（１２０分） 研究成果の発表方法について確認しておく。 ④復習（１２０分） 研究成果の発表方法について再確認をし、自身の発表方法を検討する。
14	①授業テーマ 研究成果の発表方法 ②授業概要 ゼミナールⅡで学んだことを集約し、これまでに実施した研究の成果を発表することができる（F１・G１・I２・I３・J２）。 担当教員の実務経験を踏まえて、研究に対して助言等をおこないます。 ③予習（１２０分） 研究成果の発表準備を行う。 ④復習（１２０分） 研究成果の発表について再確認しておく。
15	①授業テーマ 研究成果の発表、及びまとめ ②授業概要 ゼミナールⅡで学んだことを集約し、これまでに実施した研究の成果を発表し、概要を説明することができる（G１・F１・F２・H１・H２・I１・J１）。 ③予習（１２０分） 研究成果の発表準備を行う。 ④復習（１２０分） ゼミナールⅡで学んだ内容を再確認しておく。
関連科目	「ゼミナールⅠ（SSCS4605）」（３年次前期配当）、「卒業研究（SSCS4607）」（４年次配当）は、本講と密接に関係します。
教科書	特にありません。
参考書・参考URL	特にありません。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。

	■オフィスアワー 火曜日昼休み
研究比率	

